

- (1) 同志社女子大学を志望校・受験校と決めた理由。

最初に同志社女子大学を知ったのは、京都16私立大学の一斉オープンキャンパスの広告で。元々、国際系の学部で留学が必ずできる学部を探していたので、同志社女子大学学芸学部国際教養学科にとても魅力を感じました。高2の夏にオープンキャンパスに行ってみると受験を決めました。

- (2) 一般入試対策としての受験勉強の進め方について。

〔1学期〕

同志社女子大学の入試問題はすべてマーク式なので、まずはマーク式の問題に慣れるようにセンター試験対策用の問題を解くところから始めました。国数英はこの時期にしっかり基礎を固めておくことが大切です。また、英語の点数は読解力に左右されます。単語を覚え始めるのに早すぎることはありません。

〔夏休み〕

私はこの時期、国語が伸び悩んでいました。そこで先生がアドバイスしてくれたことは、「イロクワフリーデイング」、つまり段落ごとに文章をまとめていくこと、四択の選択肢をみる前にこの部分が答えになるはずだ、と思うところに線をひいて自分で答えを書くことでした。イロクワフリーデイングで筆者がその段落で言いたいことに線をひいていくと、その部分が文章の要約になり、さらにその中から問題の答えを導き出せることも増えてきます。また、夏休みの後半から、社会も始めておくこと直前に役に立つことも多いですよ。

〔2学期～入試直前〕

夏休みがあり、9月の半ばになると模試の結果に1学期からの成果が表れ始めました。だいたいこの時期ぐらいに推薦入試の過去問を解き始めるべきだ、というのが今は思います。私は過去問を解き始め時期が遅かったので推薦入試には落ちてしまいましたが、その後も諦めず、一般に向けて対策をしました。センター試験の英語の文法問題を、しっかりやり込んで10問中常に8問は正解するようにしておけば、同志社女子大学の一般入試の英語の文法問題も8割方大丈夫です。また社会はやればやるだけ伸びる教科なので正しい知識も妥協せず復習までしっかりすることが大切です。

- (3) この一年間の受験生活において、受験勉強と高校の行事やクラブ活動の両立、健康面での注意、テレビやスマートフォン等との付き合い方、スランプとその対処法について。

私は体育祭では応援リーダーという役割を受け持ちましたし、文化祭も有志の発表もし、この一年間の行事はとても楽しかったです。さらに部活は吹奏楽だったことで夏まで練習をしていました。大切なことは「無理しない」と思います。これはテレビやスマートフォンにも言えることだと思います。また、推薦入試の時、風邪がひどく力を出せなかったことを反省して、その後はうがい手洗いを徹底しましたし、消毒液とマスクは常に持ち歩いていました。それでも、ストレスから腹痛がひどいときもあったので、身体に異変を感じたらすぐに病院に行き、薬をもらうのがベストです。おこなったことで、試験当日に力が出せないことが1番怖いので、これは健康面はしっかり気をつけておく方がいいです。

- (4) 受験を終えて、受験生のみなさんへのメッセージ。

この一年間、きついときがあったときに支えてくれた友達や先生の存在は大きいです。また、困ったことがあったとき、すぐに相談できる先生の存在も同様です。大学生になっても自分を想像していいことをリストにまとめておくことで勉強する気持ちになれないときに、やる気を出すことが出来ます。とてもきつい一年ですが、とても思い出にも残る一年でもあるので、たくさん悩んで、しっかり頑張ってください。